

5 教師の役割と教育活動の展開

幼稚園教育が環境を通して行う教育であるという点において、教師の担う役割は大きい。一人一人の幼児理解に基づき、環境を計画的に構成し、幼児の主体的な活動を直接援助すると同時に、教師自らも幼児にとって重要な環境の一つであることを認識して教育活動を展開することが重要である。



教師の役割

幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、様々な役割を果たし、活動の場面に応じた適切な指導を行う。

共に遊ぶ
援助する
環境を構成する

- ① 幼児の心のよりどころとなること
- ② 幼児の活動の理解者であること
- ③ 幼児との共同作業者であること
- ④ 共鳴するものであること
- ⑤ 遊びの援助者であること
- ⑥ あこがれを形成するモデルとなること

《PDCAによる教育活動の充実に向けたポイント》

教育日誌記入のポイント

指導計画の作成において

- (1) 発達の理解 入園から修了までの発達の過程をとらえ、見通しをもつこと。
- (2) 具体的なねらいや内容の設定。

長期・短期計画を基に「本日のねらい」を明確に記入する。

活動の展開において

(1) 幼児の言動をじっくり観察する

(2) 幼児の内面を読み取る

- (3) 幼児への指導（手立て）を考える
- ・ 何を体験させたいのか。
 - ・ 幼児が取り組んでいる活動が十分展開できる環境なのか。
 - ・ 新たな活動を生み出せる援助ができているか。

- ・ 今、何に興味・関心をもっているか。
- ・ 何を楽しんでいるのか。
- ・ 何が育ってきているのか。
- ・ 何に行き詰っているのか。
- ・ 人とのかかわり、友達関係はどうか。

一人一人の行動、表情、つぶやき等から見えてくるものを具体的に記入する。

反省・評価において

- (1) 幼児の生活の実態や発達の理解が適切であったか。
- (2) 具体的なねらいや内容が適切であったか。
- (3) 環境の構成が適切であったか。
- (4) 幼児の活動に沿って必要な援助が行われたか。

計画と実際の違いを考察する。

指導計画の改善（園内研修の充実）

- (1) 園内研修の場において、記録を基に話し合う。
- (2) 次へのねらいおよび内容の設定と環境の構成を行う。

職員の共通理解の上で明日のクラス運営の考えを記入する。